D グループ

（特活）アフリカ日本協議会（AJF）

「持続可能な開発目標」（SDGs）もテーマになったG7伊勢志摩サミット最終日の市民社会記者会見で、サミットの成果を点数評価

所在地：台東区東上野1-20-6
丸幸ビル３Ｆ
電話番号　03-3834-6902
Fax番号　03-3834-6903
URL: http://www.ajf.gr.jp/
問い合わせ担当者名:稲場雅紀

活動名

「持続可能な開発目標」（SDGs）およびポスト2015開発課題に向けたNGOの連携と政策提言

助成活動紹介

「世界の貧困の半減」をうたった「ミレニアム開発目標」（MDGs）を引き継ぐ目標として、2012年の「リオ+20」サミットで打ち出された「持続可能な開発目標」（SDGs）。この策定プロセスに、世界の市民社会と連携して、日本の市民社会の声を反映させるのが、プロジェクトの主目的です。2016年、SDGsが実施段階を迎えてからは、日本におけるSDGsの実施に市民社会の声を反映させるため、「SDGs実施指針」に向けた市民社会の声の発信と取りまとめに取り組んでいます。

3年間の成果

ニューヨークで進むSDGs策定プロセスに日本の市民社会の声を反映させるため、外務省のSDGs交渉官や担当課と十数回にわたる意見交換会を行い、その結果、日本政府は、「誰も取り残さない」などSDGsの諸原則に前向きな姿勢を取り続けました。G7伊勢志摩サミットでもSDGsに関して前向きな成果を勝ち取り、国内実施でも内閣総理大臣を本部長としたSDGs推進本部設置に向けた力となり、SDGs推進円卓会議での市民社会の参画と取り組みを取りまとめています。

団体から一言

担当者：事業担当責任者　稲場雅紀

不安定化する世界と日本に生きる私たちにとって、「つづけられる世界」の実現を目指す「持続可能な開発目標」（SDGs）は、一つの大きな希望です。この希望の灯を消すことなく、「つづく世界、つづく日本」を現実のものにしていくために、貧困・格差問題、途上国の開発、環境問題、共催者界を目指すNGO/NPOの連携をもっと広く作っていきたいと思います。

連携・提携先

◎SDGs市民社会ネットワーク
◎動く→動かす
それぞれ、AJFが事務局を担っています。
◎環境パートナーシップ会議
◎国際協力NGOセンター（JANIC）
◎セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン
◎自立生活サポートセンターもやい
◎日本NPOセンター
ともに「SDGs市民社会ネットワーク」を担っています。

情報求む！

「持続可能な地域」づくりのために取り組んでいる各地方の団体との連携を強化したいと思っています。ぜひ情報をお寄せください。

特定非営利活動法人nature center risen

東京都世田谷区宮坂2-19-14-406
03-6413-6711
03-6413-6711
http://www.naturecenter-risen.com
担当：事務局　宮川　皓子

野外授業で環境教育を学ぶ中学校教員養成所の履修生たち

活動名

カンボジア王国コンポンチャム中学教員養成所の実践的環境教育支援

Dグループ

助成活動紹介

カンボジア王国は大河メコン川沿いの豊かな自然環境に恵まれた国ですが、近年の急速な経済発展による環境悪化が深刻になっています。一方で、ポル・ポト独裁政権の虐殺によって知識層の多くを失った影響で、同国では環境教育を行う人材が不足しています。そこで当法人では、カンボジア第3の都市であるコンポンチャム市の中学教員養成所（RTTC）で、新たに、「実践的環境教育」の導入を行いました。理科教員養成課程内において、校庭の自然やメコン川などの地域環境を活用した自然観察や理科実験を取り入れた教官研修とモデル授業を行い、正しい科学的知識に基づく実践的な環境教育を行う指導者の持続的な育成システムの構築を目指しています。

3年間の成果

同RTTCでは、5名の理科教官が研修を受け、基本的な教材も整備されて、今後も持続的に実践的環境教育を教える教員の育成を行う土台が出来上がった。また、RTTC教官や中学校理科教員が教育現場で直に活用できる「カンボジアの実践的環境教育指導書」が完成し、関係者に広く配布される予定である（同指導書は、カンボジア教育省の認可を取得する方向で調整中）。

団体から一言

担当者：事務局　宮川　皓子

「実践的環境教育は人間の教育だと思う」と話しをしてきたRTTC教官の真剣な眼差しが忘れられません。この３年間の教育支援活動の実りを実感しました。

また、若手プロジェクトリーダー一期生として研修で得た知識を実践出来たことは、活動の可能性を広げることにも繋がり、大いに自信をもつことが出来ました。
これからも教育現場を中心に活動を続けて参ります。

連携・提携先

・カンボジア王国教育・青少年・スポーツ省教員養成局
Ministry of Education, Youth and Sport, MoEYS　Teacher Training Department, TTD

・コンポンチャム中学教員養成所
Kampong Cham Regional Teacher Training Center ,RTTC

情報求む！

一緒に活動が出来る方や活動を応援してくださる方々を募集しております。
お気軽に事務局までご連絡下さい！
お待ちしております。

GREEN

環境保護トレーナーの教員が中学生にワークショップを行う

340 Nguyen Van Cu street, Ninh Kieu ward, Can Tho City, Vietnam
+84 7103-897846
+84 7103-896215
http://windyvn.jp
Dr. Nguyen Phuong Toai

Dグループ

活動名

ベトナムカント市における青少年向け環境保護活動普及のためのトレーナー養成プログラム

助成活動紹介

地球温暖化の影響が大きいベトナム・メコンデルタ地域の中高生を対象に、参加型手法を用いた生活と学習に密着した環境保護改善を、教員が行います。

GREENによる、2日間の参加型手法による環境保護トレーナー研修を受けた教員が、各学校で生徒約25名に1日の環境保護ワークショップを行い、生徒は改善計画を作って、教員が収集します。また環境保護を取り入れた授業ができ、クラスや学校の中でも環境保護活動が活発です。教員の家庭での環境保護や3Rも進んでいます。

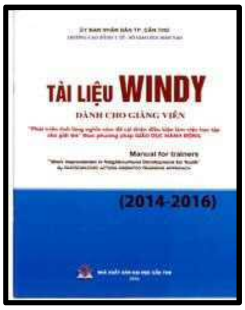
3年間の成果

カント市教育トレーニング部同意の下、10校（中学、高校各5校）で、100名の教員の環境保護活動トレーナーを養成し、約250名の生徒にワークショップを行い、約1500件の環境改善が各家庭で行われました。また学校のゴミ集積場作り、各クラスをペットボトルを使った植栽で飾る、環境改善展示場を設ける、環境改善コンクールを行う等、各校でユニークな活動が行われています。

団体から一言

担当者： Dr. Nguyen Phuong Toai

使いやすい環境保護活動マニュアルと、参加型トレーニング手法を開発し、教員に提供することで、教員自身が環境保護活動を積極的に展開します。



環境保護活動マニュアル

連携・提携先

カント市教育トレーニング部
カント医科大学
（特非）東京労働安全衛生センター

情報求む！

日本の中学校や高校生が、日常生活や学習の場で行っている環境保護活動を知りたいです。
また教員が学校の中で行う、環境保護教育の成功事例を教えてください。

NPO法人 イカオ・アコ

フィリピン中央州立大学にてレタスの植付けの実習を終えたところ。
後ろに見えるのは建設した作業小屋。その他、灌漑施設も建設した。

愛知県東海市大田町川南新田229
日本福祉大学内
0562-39-3238
0562-39-3281
http://ikawako.com
担当：後藤、倉田

Dグループ

活動名

フィリピン西ネグロス州における有機農業による持続可能な開発のための教育（ESD）事業

助成活動紹介

有機農業を担う若者の育成を目的として、フィリピン西ネグロス州ビクトリアス市の農村部に位置するエスタド高校農業専攻、ビクトリアス高校ガストン分校、フィリピン中央州立大学を対象に、持続可能な開発のための教育（ESD）を実施する。また、ESDを学校全体に浸透させるため、教員を対象とした研修を行う。これにより、卒業生が地元に対する愛着を深め、地元に根付き、環境に配慮した有機農業や農業関連産業を担い、地域が持続的に発展していくことが見込まれる。

3年間の成果

ESD、実習、農家訪問などにより、農業・ふるさとの価値を再評価する高校生、大学生が増加した。従来、高校のクラスで数名が脱落していた状況が、全員が卒業することができたことから、大きく改善した。マスコミにもプロジェクトが取り上げられ、徐々にESDが地域に波及している。さらに持続可能な取り組みとするため、教員用にESDマニュアルを作成した。

団体から一言

担当者：後藤、倉田

途上国であっても、人々の環境問題や有機農業に対しての意識は高い。プロジェクト実施期間中の10月にビクトリアス市がオーガニック・マーケットをダウンタウンにオープンさせた。市内の有機農産物がここで販売される。イカオ・アコもCafé Midoriをその中に開設し、有機農産物を加工して食事を提供している。またシェフ、ホールスタッフなど地元から採用した。モノ、ヒトの地産地消から地域おこしにつながることを期待している。

連携・提携先

ビクトリアス市役所
ビクトリアス・オーガニック・マーケット
フィリピン中央州立大学
エスタド高校、ビクトリアス高校ガストン分校
イベントの審査をしていただいた多数の専門家
Café Midori
市内の有機農業に携わる農家

情報求む！

途上国でマルチに活動してみたい若者をご紹介ください。1週間から6か月のインターンとして、イカオ・アコ国際協力研修センターにて宿泊できます。

act lab
Art Culture & Technology Laboratory

特定非営利活動法人 いわて芸術文化技術共育研究所

体験会では「風の又三郎」の作品舞台"猫山"でモリブデンの採集も。童話の世界が目の前に広がり、自ら触れる瞬間です。

岩手県盛岡市手代森14－16－242
019-675-1303
019-675-1304
http://act.jpn.org
南幅

Dグループ

活動名

早池峰から三陸をモデルとした"地球との絆"環境教育実践型プログラムの構築とネットワーク形成

助成活動紹介

早池峰山域から三陸沿岸において、この地特有の気候風土の中で、「人々がどう自然環境と共生してきたか」という、昔から続いてきた持続可能な"くらし"をみつめ、この地域から地球全体の環境保全に繋がる大切な要素を"地球との絆"と位置づけて、見直して掘り起こす。更に新たな工夫で一人一人が取り組みを繋げることのできる実践的環境教育支援プログラムを開発する。これらを多様な連携のもとに住民が主体となり、実践工夫しながら普及啓発に取り組むことで、長期的な普及啓発効果を図り、更なる取り組みの持続・発展へと繋げる。

3年間の成果

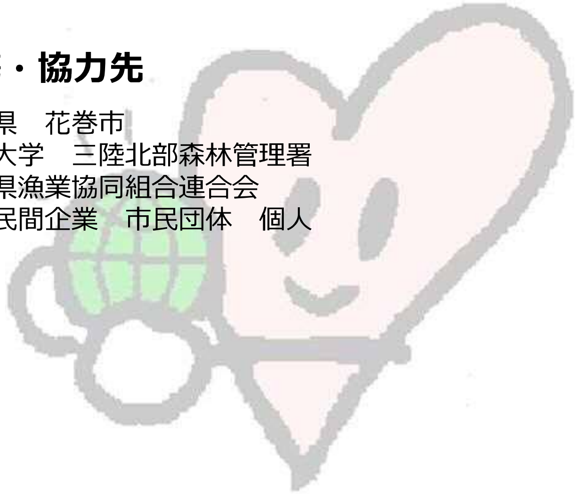
■**調査活動**／調査報告書（26年度A4/100頁・27年度A4/148頁）配布累計660部。
■**プログラム開発**／「銀河の森と河物語」（映像DVD併用）2100部配布「小さな森の物語／猫山・外川目編」（A4/30頁）900部配布・「自然との共生の郷・外川目から地球との絆をみつめる」（A4 /10頁）900部配布・「花鳥図譜、八月、早池峰山巓」（朗読CD併用）1000部配布。
■**普及啓発**／ポスター1,300部・パンフレット1,000部・チラシ８,000部・ポストカード35,000部配布。Webアクセス数13,657PV。普及支援・協力者数95。

団体から一言

宮沢賢治の作品舞台をみつめながら、環境教育プログラムの開発と啓発に取り組んでいます。

連携・協力先

岩手県　花巻市
岩手大学　三陸北部森林管理署
岩手県漁業協同組合連合会
他、民間企業　市民団体　個人



「生物多様性と子どもの森」キャンペーン実行委員会

開発した教材「一本の木の物語」とスリランカでの樹木の植栽活動

東京都文京区後楽1-7-12林友ビル6F
03-5684-3890
03-5684-3890
http://www.greenwave-net.com/
事務局長　寺嶋　嘉春

Dグループ

活動名

全国・世界での生物多様性の主流化に向けた先導モデル創出・推進体制構築事業

助成活動紹介

国内での地域に根付いた生物多様性の主流化の促進に向けて、生物多様性に関する環境教育の導入教材と地域での発展的取組みを促進するための地域展開モデルを開発することをめざし、活動を展開しています。また、国内外の参加促進を図る推進体制の確立に向け、多様なセクター・分野の団体の参画のもとに推進体制を確立し、全国的行事と連携したシンボル的行事の実施、イベントでのPR、地域と連携したキャンペーンを展開しています。さらに、世界での生物多様性の主流化に向け、国際会議での発信、海外の団体と連携した情報交流・交換プラットフォームを構築しています。

3年間の成果

①「一本の木の物語」22種の開発、②発展的モデルの10箇所構築、③20都道府県でのサポート体制と推進体制の確立、④計15回の全国的な行事でのPR活動と20箇所でのキャンペーン実施、⑤世界との情報交流・交換のプラットフォームの構築、⑥国際会議での発信計５回を行っています。

団体から一言

実行委員長：川廷昌弘

この事業で作成した、生物多様性に関する環境教育導入教材「一本の木の物語」は、都道府県の木や学校に植えられている身近な樹木２２種について、鳥や昆虫、動物、私たちの暮らしでの利用などの解説やその樹木をテーマとした楽しみ方を掲載した冊子です。あわせて、指導者用のガイドブックも作成しました。

指導者の派遣要請には、全国各地の森林インストラクターなどが対応させていただきます。

連携・提携先

（一社）CEPAジャパン、（公財）オイスカ、（公社）国土緑化推進機構、（特非）子どもの森づくり推進ネットワーク、（一社）日本森林インストラクター協会、（一社）全国森林レクリエーション協会、（公社）日本環境教育フォーラム、（公財）日本環境協会、（公財）日本生態系協会、（一社）日本植木協会、生物多様性の10年日本委員会

情報求む！

国際生物多様性の日（5月22日）またはグリーンウエイブの期間（３月1日~6月15日）に木を植えたり緑とふれあう活動をするグループは、グリーンウェイブのサイトhttp://greenwave.undb.jp/に登録してください！

特定非営利活動法人 アジア太平洋資料センター（PARC）

東京都千代田区神田淡路町1-7-11

03-5209-3455

03-5209-3453

http://www.parc-jp.org/

田中

身近な電子機器と世界の環境問題のつながりを示す

活動名

携帯電話等小型電子機器と鉱物採掘における環境問題の関係性を示した環境教育教材の開発・実践および普及

助成活動紹介

携帯電話・スマートフォンをはじめとする小型電子機器の爆発的な増産に伴う環境負荷の高い鉱山開発を減らすために、身近な電子機器と採掘問題をつなげた環境教育教材の開発・実践・普及のための活動を行う。このために、アジア、アフリカ、南米のそれぞれの鉱山開発現場あるいは、鉱山開発の問題点を指摘する現地NGOを訪問・取材し高校・大学での使用を想定した映像教材資料、副読本、授業案を製作する。また、直接的な普及啓発をするために連続講座、シンポジウムなどを開催する。

3年間の成果

・教材DVD「スマホの真実」を製作。全国の図書館・大学など200ヵ所以上に配布
・上記DVDを活用した講演会・ワークショップを全国の市民集会、大学にて実施。19箇所のべ約500名へ直接普及啓発活動を実施
・電子機器製造企業や金属調達に関わる企業3社以上と対話を実施。

団体から一言

担当者：田中　滋

私たちにとって身近な電子機器となったスマホ・携帯電話を作るために世界中から鉱物が集められています。そしてその中には甚大な環境破壊を伴う鉱山現場もあります。私たちはそのことに目を向け、これからの暮らしのあり方、鉱物資源との付き合い方を考えていかなければなりません。

連携・提携先

エシカルケータイキャンペーン実行委員会、Fairphone、MiningWatch Canada、Global Witness、Kalikasan PNE、AGHAM、DECOIN、PoPoF、Better Sourcing Program、GAIA Foundation

情報求む！

問題鉱山の情報求む。鉱山開発は世界中で環境破壊と人権侵害の温床となっています。そうでない鉱山ももちろんありますが、問題鉱山は早急に対策を取らなければ取り返しのつかない破壊をもたらします。

Dグループ

特定非営利活動法人
えひめグローバルネットワーク

四国ユースサミット（愛媛県新居浜市）の開催

愛媛県松山市東雲町5-6
089-993-6271
089-993-6227
http://www.egn.or.jp/
髙山莉菜

活動名

アジア・アフリカとつながる
四国SDGsネットワーク（SSN）
構築プロジェクト

助成活動紹介

2015年に終了したMDGs（ミレニアム開発目標）に続く目標として、2016年～2030年までのグローバル目標SDGs（持続可能な開発目標）が決定しました。先進国と途上国の格差、また途上国の開発による国内の格差が広がる中、四国においても人口の問題と相まって都市部と中山間地域の格差は引き続き拡大し続け、特に中山間地域の過疎化・高齢化は深刻な課題となっています。そこで、本事業では、四国各県での勉強会・研修会の開催に加え、アジア・アフリカ、四国でのケーススタディを踏まえて、四国SDGsネットワーク（SSN）を構築し、共通する課題の明確化とともに解決・改善のためのユースを中心とした試行を行いました。

3年間の成果

四国SDGsネットワーク構築に向けた学びあいの中で、特に中高大学生などのユース世代との連携を進めました。環境、国際、フェアトレード、防災などのキーワードでつながることができ、「四国ユースネットワーク」構築を進めることができました。

団体から一言

担当者：髙山莉菜

発展途上国を主な対象としていたMDGsでは、日本を含む先進国は支援する立場だったのに対し、SDGsでは、先進国・新興国も対象となったことから、目標達成のために両者が一緒になって取組むことが必須となりました。

SDGsをいかに自分事として捉えられるようになるか、3年間、試行錯誤しながらではありましたが、ユースを中心としたネットワーク構築の1歩を踏み出すことができました。

連携・提携先

【勉強会共催団体】
一般社団法人環境パートナーシップ会議/特定非営利活動法人アフリカ日本協議会/POST2015 プロジェクト/特定非営利活動法人えひめ311/清和女子中高等学校/四国環境パートナーシップオフィス
【フィールドワーク協力団体】
特定非営利活動法人香川国際ボランティアセンター/CCWAえひめの会/認定NPO法人国際地雷処理・地域復興支援の会

情報求む！

中学生、高校生、大学生などのユースが取り組む、ESD（持続可能な開発のための教育）やSDGsなどに関連する活動。

南三陸ネイチャーセンター友の会

地域の資源を発掘・研究と、エコツアープログラムの造成

宮城県南三陸町入谷字天神79
080-4339-8823
FAXなし
http://rias-nature.jp
事務局長　藤田 岳

Dグループ

活動名

南三陸町エコツーリズム推進事業

助成活動紹介

東日本大震災からの復興をはかる1企画として、南三陸町内の森や海などの自然環境を、町を訪れられる方々にガイドを提供して散策するエコツアープログラムを開発していきます。
これを推進するにあたり、対象となるフィールドの持続可能な活用、および質の高い活用を図るためにエコツーリズムの仕組みを導入し、町の自然史を中心とした資源を負荷かけることなく利活用し続けていく基盤・場を整備していきます。

3年間の成果

多様な自然環境資源について専門家の力を借りて発掘・研究を進め、各フィールドのガイドブックや、資源の保全のためにガイドをする際に守るべきガイドライン案などを作成しました。
これらを利用したモニターツアー等も実施し、町内外多くの方へ地域の魅力を伝えるための基盤が整備されてきています。

団体から一言

担当者：藤田岳

南三陸町は、“森里海ひと”の豊かな資源が揃い、自然に触れ学びを得るのにとても適した地域です。一方で、大震災からの復興の過渡期にもあり、こうした資源の発掘や活用が、まだまだ十分に進んでいない現状もあります。

こうした魅力ある特徴をさらに際立たせ、健やかな地方のくらしの実現と、楽しく実りあるエコツアーの実現に取り組んでいきます。

連携・提携先

○南三陸町各担当課：産業振興課
　　　　　　　　　　生涯学習課
　　　　　　　　　　ネイチャーセンター準備室
　http://www.town.minamisanriku.miyagi.jp/
○一般社団法人南三陸町観光協会
　http://www.m-kankou.jp/
○東北大学　http://www.tohoku.ac.jp/

情報求む！

南三陸町を舞台に、自然史研究や人文・歴史研究等、地域資源研究をしてくださる方々の受け入れをおこなっています。研究データを活用した地域おこしにご協力をお願いいたします。

特定非営利活動法人しゃぼん玉の会

環境ツアー水俣参加者の皆さんです。

埼玉県桶川市川田谷５５６３－５
090-1793-6665
048-786-9261
http://www.syabondama.com
理事長　吉村史朗

Dグループ

活動名

「実践的な人材の育成と連携・協力体制の構築を目指す、不登校・発達障害の児童生徒が参加する環境学習ワークショップ」事業

助成活動紹介

教育・福祉関係を志望する大学生や若手の現職教員や福祉関係職員が発達障害や不登校経験のある小中高校生や青年と一緒に、環境学習を行ってきた。被災した宮城県山元町の中学校の外灯のための太陽光パネルを現地の中学生と手作りしたり、被災した宮城・福島の沿岸部・尾瀬・水俣・長崎などの環境ツアーや田んぼの生き物調査などの環境ワークショップなどを行った。

3年間の成果

発達障害の子どもたちがその特性をいかして、太陽光パネルの手作りに３年間取り組んだ。水俣や被災地の現場に立つことで被害の実相への理解が深まり、関心の幅が広がることも確認できた。またワークショップに参加した大学生の中から５名が小中学校の教員となり、教育現場で環境教育の実践を始めている。発達障害の児童生徒を担当する特別支援学級や通級学級の先生との毎月１回の勉強会にも参加して、地域の連携を図る一歩を踏み出すことができた。

団体から一言

担当者：吉村史朗

家に引きこもりがちな発達障害や不登校の子どもたちも、彼らの良さを生かし、適切な働きかけがあれば、目を輝かせて活動することができます。今後もさらに多くの活動事例を収集、実践して発信していきたいと思います。今後ともどうぞよろしくお願いします。

連携・提携先

NPO法人インディアンヴィレッジキャンプ
自然エネルギー事業協同組合REXTA
ソーラーネット・ERGA･ソーラーのらや
星さ学園高校大宮校・山元町種まき会議

協働相手求む！

発達障害や不登校経験のある子どもや青年と環境教育に取り組んだ経験のある団体などと情報交換することで、効果的な手法を学びたい。

特定非営利活動法人鮭守の会

栃木県真岡市東郷1589

0285-81-5544

F0285-81-5092

http://sakemori.sub.jp/wordpress/

柳田　耕太

活動名

森の恵み-山・川・海をつなぐ
鮭たちの姿

Dグループ

助成活動紹介

①自然環境ガイドブック制作と本ガイドブック内容及び活用の調査。
②森の工房を活用しての四季の自然観測
③身近な自然環境を生かすエコ・グリーンツーリズムの企画・実施の推進をはかる。

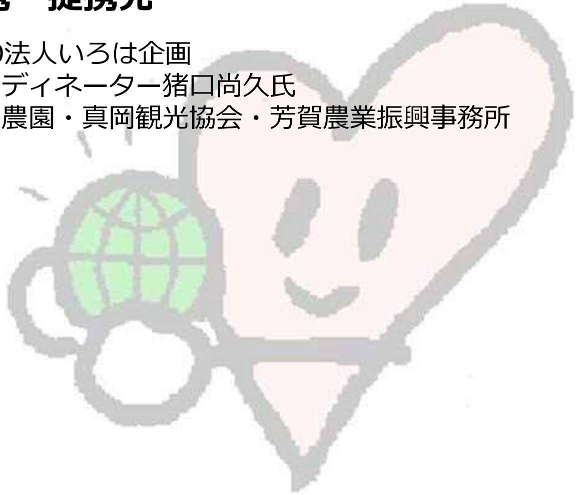
3年間の成果

①自然環境ガイドブックを一市四町へ配布し、活用推進をしている。
②森の工房の活用-春秋を中心に自然観察会の実施。
③鮭守の会、いろは企画、真岡農園、コーディネーター猪口氏と連携し、エコグリーンツーリズムのプログラム内容の充実を図る。

団体から一言

担当者：柳田 耕太

私たちは平成15年10月から五行川へ回帰する鮭の姿を子供たちの代まで受け継ぐべく、鮭の保護河川環境保護の啓蒙活動を行っております。身近な自然を大切にする事がいかに需要であるか、様々な活動から発信して参ります。

連携・提携先

NPO法人いろは企画
コーディネーター猪口尚久氏
真岡農園・真岡観光協会・芳賀農業振興事務所